

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	上田市立第三中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	2	15	26.5
生徒数	152	147	185	5	489	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組むためにはどのようにしたらよいか。
 ~「つける力」と「その力をつけるための手だておよび評価」を明確にして~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年国・社・数・理・英の五教科
 月曜日放課後に自主学習時間を全学年位置づけているため。
 2・3年選択教科
 選択教科のあり方について研究を進めるため。
 全学年数学
 現在実施している少人数学習集団の指導の研究すすめるため。
 2・3年英語
 少人数集団学習のあり方の研究を進めるため。
 全教科
 学力向上を考えた取り組みを各教科研究していく。

(2) 年次ごとの計画

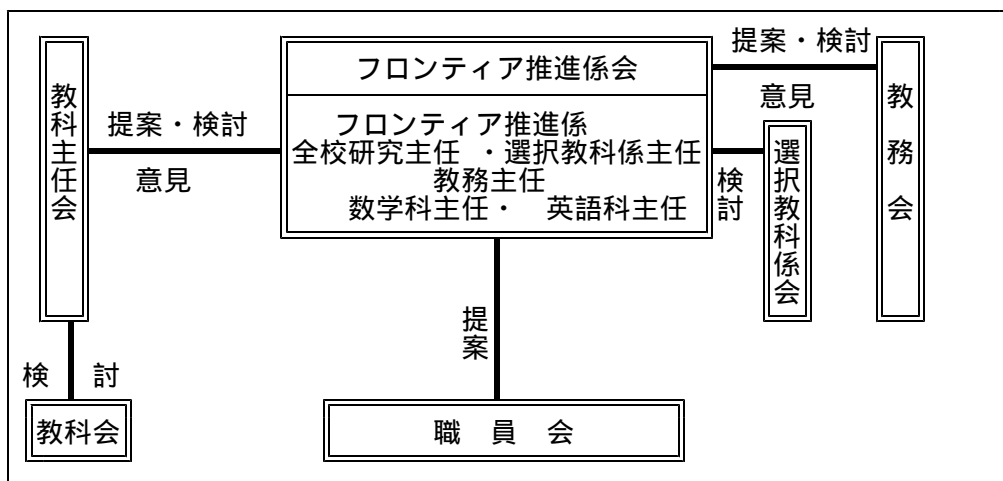
平成14年度	テーマ 「3年間の研究の方向性と課題を明らかにする。」 研究の見通し(仮説) 学校体制・各教科体制での取り組み視点を1年次明確にすることから、学力向上に向けたアウトライン作りができる。 研究の内容・方法 少人数集団学習の指導のあり方の研究 ア 数学科 アンケートを実施し、学力向上を視点に入れコース編制方法やコース別学習における評価のあり方などについて研究する。 イ 3学年少人数集団学習に向け、編制方法について研究する。 各教科の評価と指導の一体化をはかるための評価方法の工夫改善。 選択教科の指導体制のあり方を中心にした研究。 放課後を活用し、特設自主学習時間=「大星タイム」を設け、学力向上を視野に入れた研究。 朝の10分間読書の実施 (平成13年度途中より実施)
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成15年度	テーマ 「具体的な実践と新たな課題を明らかにする。」 研究の見通し(仮説) 評価方法を考えながら、少人数集団学習の指導研究をすることで、学力向上に向けた新たな課題が明確になる。 選択教科の年間指導計画と評価規準の見直し、補充・発展的教材の研究をすることで、学力向上に向け選択教科の位置づけが明確になる。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 15 年度	<p>特設「自主学習時間＝大星タイム」の定着、指導法の研究、課題の与え方の研究をすることで学力向上に向けたあらたな課題が明確になる。 各教科「やればできる」場の設定と自己評価カードについて研究することで、学力向上に向けたあらたな課題が明確になる。</p> <p>研究の内容・方法 公開研究発表会を開き、研究を深める。 少人数集団学習の指導体制や自己評価のあり方、評価問題について研究 選択教科の補充・発展的教材の開発や評価について研究。 「自主学習時間＝大星タイム」の定着と効果的指導法の工夫 朝読書の充実</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>テーマ 「1・2年次の研究を実践しまとめる。」</p> <p>研究の見通し（仮説） 2年間の取り組みを見返すことを通して、継続していく内容、改善していく点を明確にすることで、今後の指導に生かすことができる。</p> <p>研究の内容・方法 各教科ごとに指導と評価に関わるまとめをし、学力向上のために取り組むことを明確にし、普段の指導に生かす。 他校・他県の取り組みを学び、本校の研究を見返し、今後の指導に生かす。</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 自主学習時間＝大星タイムへの取り組み

大星タイムに今まで何回ぐらい出席したか。(アンケート調査より)

	0回	1～2回	1/3くらい	半分くらい	2/3くらい	毎回
1年生	13%	40%	1%	2%	2%	43%
2年生	12%	39%	24%	4%	12%	9%
3年生	39%	42%	14%	2%	2%	1%

大星タイムに参加しての感想(複数回答可)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1年生	42%	14%	11%	19%	5%	13%	4%	1%
2年生	31%	19%	11%	7%	2%	19%	12%	4%
3年生	13%	24%	9%	5%	5%	10%	13%	3%

ア とても勉強になった
イ 個人的な質問ができて良かった。
ウ 勉強のやる気が出てきた。
エ もっと回数を多くしてほしい。
オ 時間が短い。
カ あまり役立たなかった。
キ つまらなかった。
ク 先生と個人的な話ができて良かった。

大星タイムに参加した理由

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
1年生	48%	32%	1%	5%	3%	6%	14%
2年生	21%	30%	5%	5%	13%	24%	15%
3年生	27%	23%	4%	1%	6%	13%	10%

ア わからないところを質問する。
 イ もっと成績を上げたい
 ウ 先生に勧められた。
 エ 一度参加したら楽しかった。
 オ 先生に強制させられた。
 カ 友達に誘われた。
 キ 一人では勉強できないが、大星タイムならできると思って。

(2) 数学科で少人数集団学習を実施しての、生徒のアンケート結果から

自分でしっかりと問題について考え、粘り強く追究することができましたか。

	調査人数	ア		イ		ウ		エ		オ	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
H14 3学年	151	12	8	44	29	63	42	26	17	5	3
H15 3学年	174	21	12	63	36	69	40	19	11	2	1

ア大変良くできた イ良くできた ウ普通 エあまり良くできない オ良くできなかった

学習内容は自分の力にあっていましたか。

	調査人数	ア		イ		ウ		エ		オ	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
H14 3学年	151	14	9	48	32	69	46	16	11	3	2
H15 3学年	174	31	18	56	32	72	41	11	6	4	2

ア大変合っていた イ合っていた ウ普通 エあまり合っていない オ合っていなかった

学習内容はわかりやすかったですか。

	調査人数	ア		イ		ウ		エ		オ	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
H14 3学年	151	22	15	48	32	53	35	17	11	10	7
H15 3学年	174	24	14	61	35	68	39	17	10	4	2

ア大変わかりやすい イわかりやすい ウ普通 エあまりわかりやすくない
 オわかりやすくない

学習の定着について

	調査人数	ア		イ		ウ		エ		オ	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
H14 3学年	151	7	5	45	30	60	40	31	21	7	5
H15 3学年	174	11	6	56	32	76	44	28	16	3	2

ア大変力がついた イ力がついた ウ普通 エあまり力がつかない カ力がつかない

授業の雰囲気について

	調査人数	ア		イ		ウ		エ		オ	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
H14 3学年	151	19	13	45	30	67	44	13	9	6	4
H15 3学年	174	34	20	68	39	68	39	11	6	4	2

ア大変楽しかった イ楽しかった ウ普通 エあまり楽しくない オ楽しくなかった

(3) 貸し出し読書量調査結果

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2001年	159	732	353	205	70	159
2002年	518	737	666	558	239	333
2003年	520	1036	752	858	88	455

	10月	11月	12月	1月	2月	合計
2001年	866	471	492	325	146	3978
2002年	449	518	405	342	189	4954
2003年	499	557	350			5115

(12月現在)

2 今後の課題

- (1) 大星タイムでの参加者数の増加のための工夫・方法と講座内容の工夫。
- (2) 少人数集団学習の弾力的運用法の開発と自己評価カードの活用の工夫。
- (3) 各教科における自己評価カードを活用した日常的実践法の研究。
- (4) 学力向上と実践した指導内容・方法との因果関係を探りまとめる。

学力把握のための学校としての取組

- 1 校内学習生活実態調査 5月(全校対象)
- 2 NRT学力実態調査(数学のみ) 7月 本年度のみ
- 3 学力実態調査(5教科) 2月 本年度のみ(東京書籍)
- 4 大星タイム・朝読書アンケート 必要な時期(全校対象)

フロンティアスクールとしての成果の普及

- 1 11月13日(木) 研究発表会実施
 - (1) 参加者数 26名(本校職員除く)
 - (内) 高校教諭 5名 他中学教諭 13名 県外参加者 4名
 - 教育事務所 4名
 - (2) 開催場所 上田市立第三中学校
 - (3) 内容 取り組み内容の発表
数学科授業発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4~6学級
7~9学級 10~12学級
13~15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
外国語 音楽 美術 技術・家庭
保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有 無